

2012年8月9日 全6頁

Indicators Update

6月機械受注～民需の回復は緩慢

4-6月期は2四半期ぶりのマイナス

経済調査部
エコノミスト 増川智咲

[要約]

- **【概況】一時的な弱含みの兆候**：6月の機械受注統計は、前月からの反動で内需が増加した一方で、欧州財政問題が足枷となっている外需が落ち込んだ。国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.6%と市場コンセンサス（同+12.0%）を下回った。4-6月期の実績値は、前期比で▲4.1%と2四半期ぶりのマイナスとなった。基調として一時的な弱含みの兆候が見られ、民需の回復は、想定していた以上に緩慢なものとなる可能性が高い。
- **【受注の主要内訳】製造業は素材産業を中心に落ち込む**：需要者別では、製造業が前月比▲2.9%、非製造業（船舶・電力を除く）は同+2.6%と若干弱い。円高や海外経済の減速から、このところ製造業が弱含んで推移している。製造業の中でも、特に素材産業の落ち込みが目立つ。他方、加工産業は堅調な推移となっている。
- **【今後の見通し】7-9月期予想は前期比▲1.2%と弱い**：概ね企業の設備過剰感は和らいでいるが、海外経済の減速が、企業の設備投資に対する姿勢を弱めている要因のようだ。足下では、輸出産業が特に下押し要因となっているわけではないため、米国や新興国向けが中心となり輸出が徐々に持ち直していけば、今後も同産業が設備投資の回復へ寄与していくものと考えている。

【概況】一時的な弱含みの兆候

6月の機械受注統計は、前月からの反動で内需が増加した一方で、欧州財政問題が足枷となっている外需が落ち込んだ。国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.6%と市場コンセンサス（同+12.0%）を下回った。

4-6月期の実績値は、前期比で▲4.1%と2四半期ぶりのマイナスとなった。3四半期移動平均でも、前期比▲1.3%と10四半期ぶりのマイナスである。また、達成率も88.2%と、前月から▲4.7%pt低下した。基調として一時的な弱含みの兆候が見られ、民需の回復は、想定していた以上に緩慢なものとなる可能性が高い。

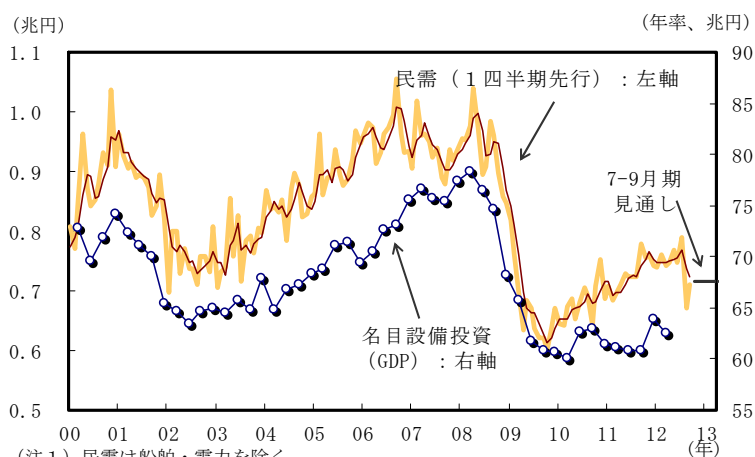
図表 1 : 機械受注の概況 (季節調整済み前月比、%)

	2011年						2012年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
民需 (船電を除く)	▲2.8	0.5	▲2.3	▲0.6	3.1	▲2.5	0.7	2.8	▲2.8	5.7	▲14.8	5.6
コンセンサス												12.0
DIR予想												7.6
製造業	▲3.0	4.6	▲7.8	2.8	2.9	▲4.0	▲1.3	9.5	▲8.4	3.4	▲8.0	▲2.9
非製造業 (船電を除く)	▲1.1	▲4.1	5.6	▲4.8	5.4	▲4.0	1.4	2.1	▲3.9	5.7	▲6.4	2.6
外需	▲6.8	22.2	▲16.0	1.6	14.1	4.1	14.6	▲13.4	▲14.4	0.3	0.3	▲9.8

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 内閣府、Bloombergより大和総研作成

図表 2 : 機械受注とGDPベースの名目設備投資



(注1) 民需は船舶・電力を除く。

(注2) 民需の太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。

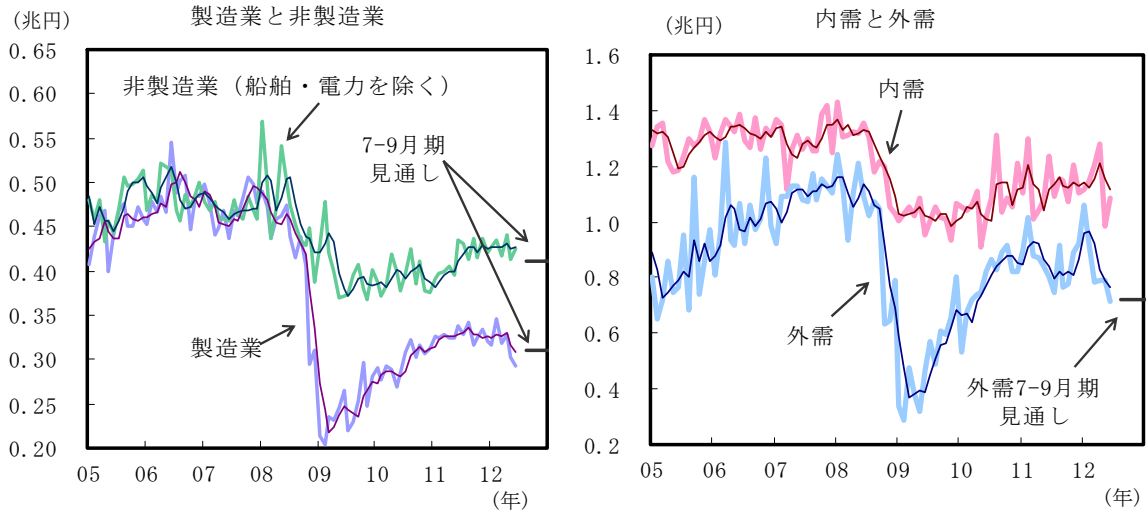
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

【受注の主要内訳】 製造業は素材産業を中心に落ち込む

需要者別では、製造業が前月比▲2.9%、非製造業（船舶・電力を除く）は同+2.6%と若干弱い。製造業は、15業種中6業種（前月の5業種から増加）が前月比でプラス、非製造業は12業種中4業種（前月と同じ）がプラスとなった。円高や海外経済の減速から、このところ製造業が弱含んで推移している。製造業の中でも、特に「非鉄金属」（前月比▲43.6%）や「パルプ・紙・紙加工品」（同▲42.7%）などの素材産業の落ち込みが目立つ。他方、情報通信機械（同+61.7%）などの加工産業は堅調な推移となっている。非製造業は、振れを伴いながらも横ばい圏での推移と言える。

外需に関しては、前月比▲9.8%と3ヶ月ぶりに落ち込んだ。機種別では特に「産業機械」が弱い。

図表3：需要者別機械受注（季節調整値）

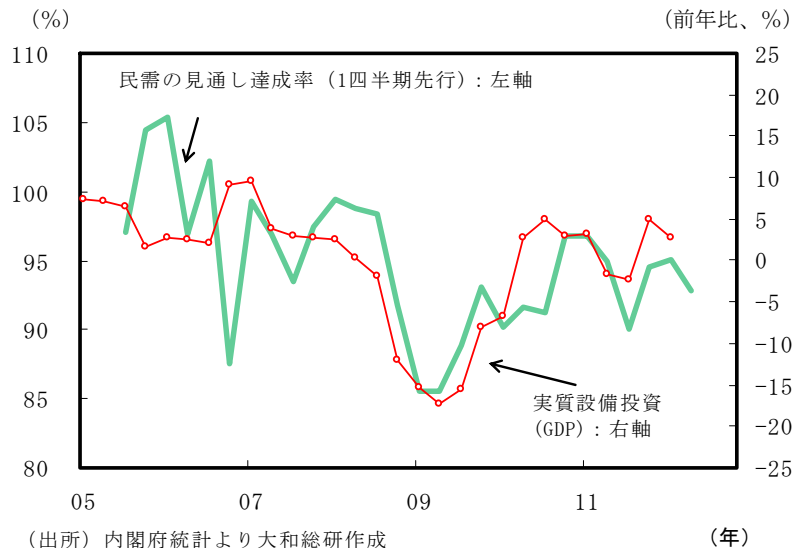


(注) 太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

【今後の見通し】7-9 月期予想は前期比▲1.2%と弱い

概ね企業の設備過剰感は和らいでいるが、海外経済の減速が、企業の設備投資に対する姿勢を弱めている要因のようだ。実際、7-9 月期の見通しでも民需（船舶・電力を除く）は、前期比▲1.2%と若干弱い。足下では、輸出産業が特に下押し要因となっているわけではないため、米国や新興国向けが中心となり輸出が徐々に持ち直していけば、今後も同産業が設備投資の回復へ寄与していくものと考えている。また、復興需要が顕在化するにつれ、内需を中心に持ち直していこう。均してみると、7-9 月期の見通しは、毎月+0.4%（前月比）を上回れば達成できる。

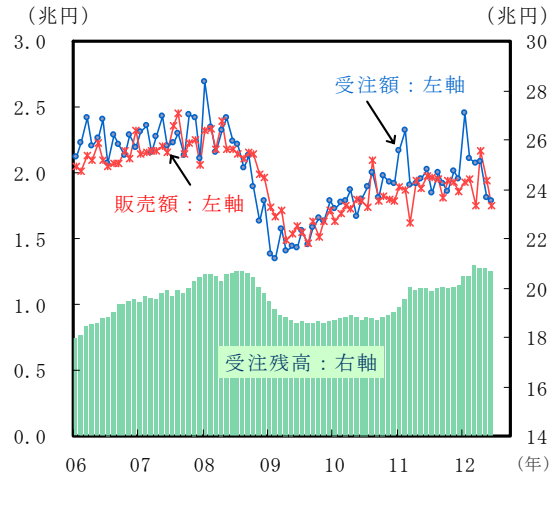
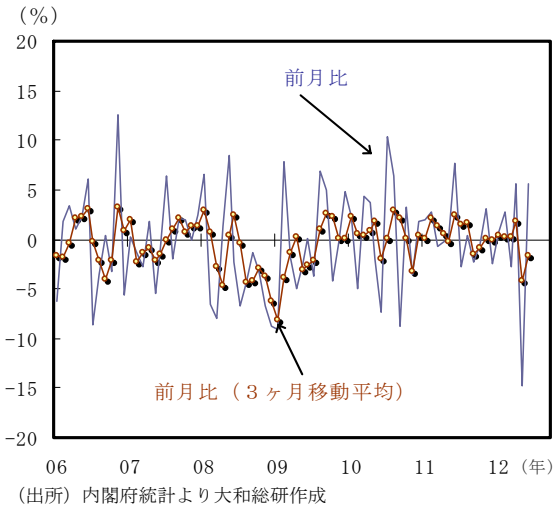
図表4：設備投資と民需（船舶・電力除く）の見通し達成率



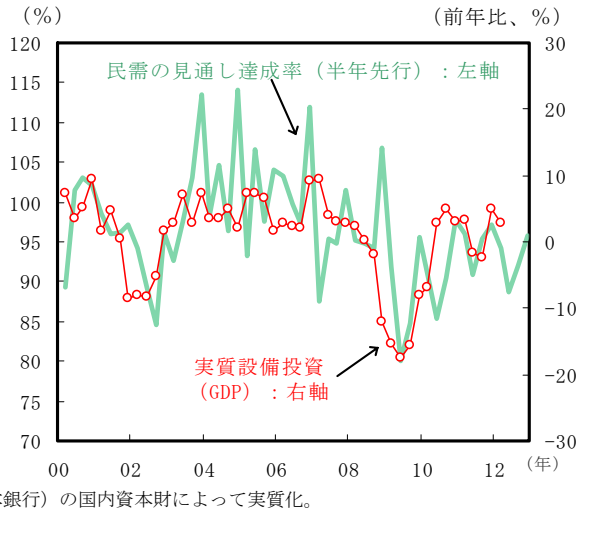
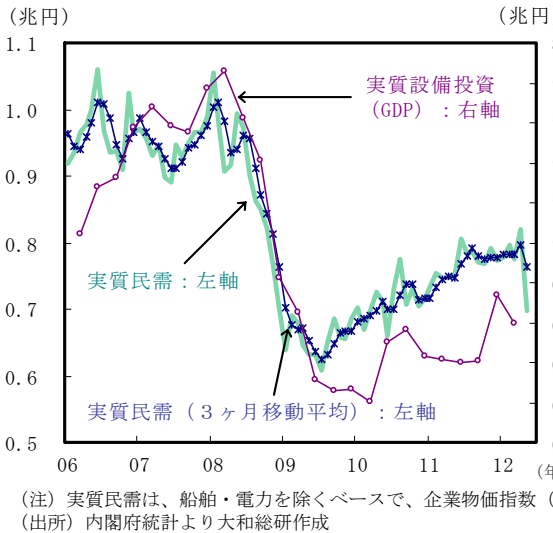
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

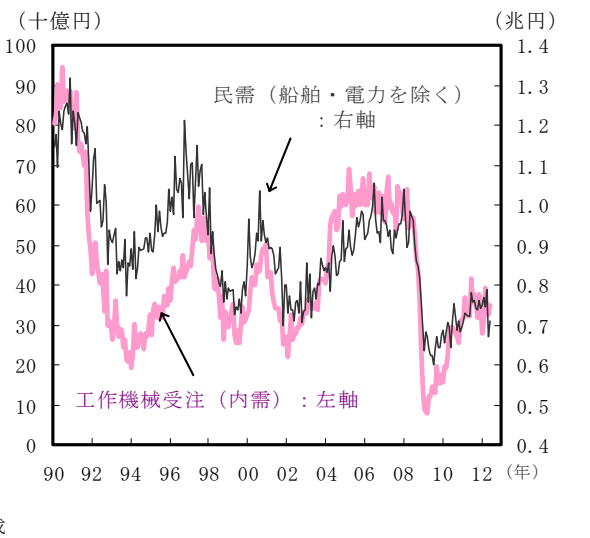
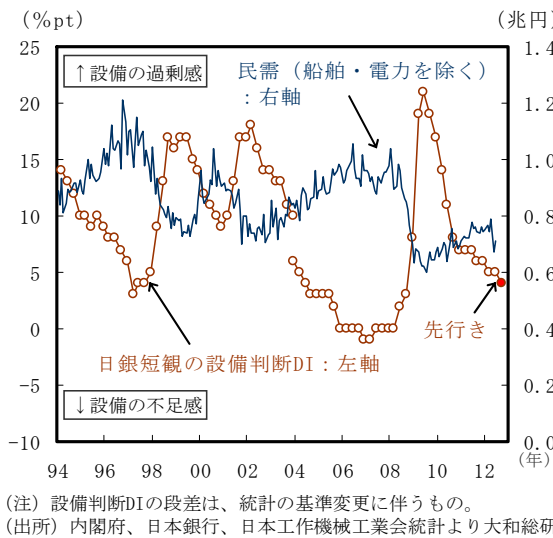
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比） **船舶を除く合計（季節調整値）**



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値） **民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資**

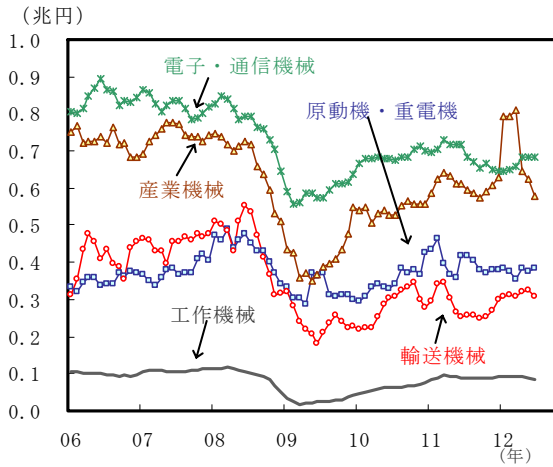


機械受注（季節調整値）と設備投資判断DI **機械受注と工作機械受注**



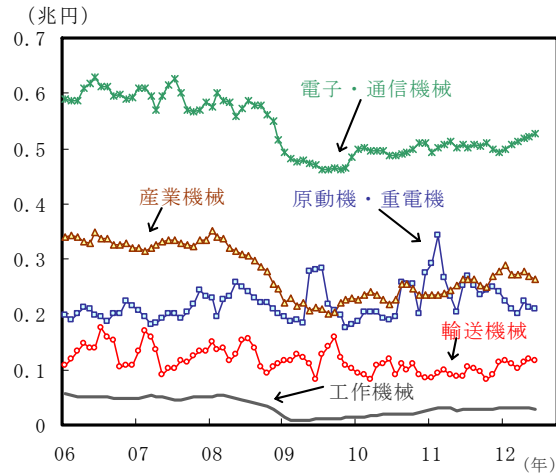
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

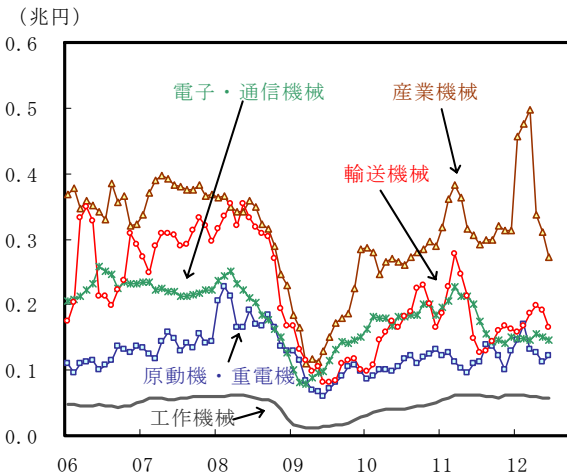


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

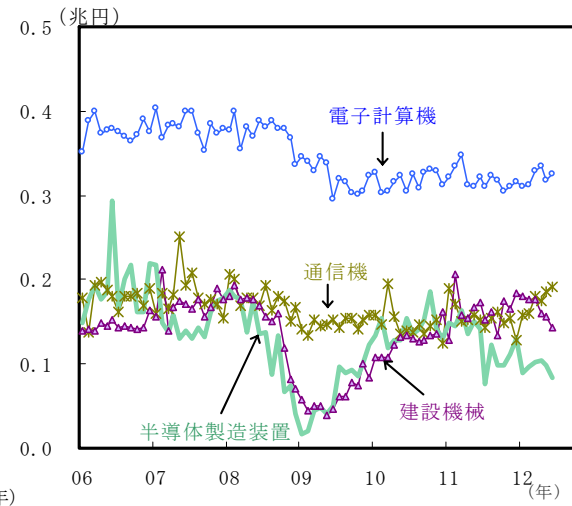


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

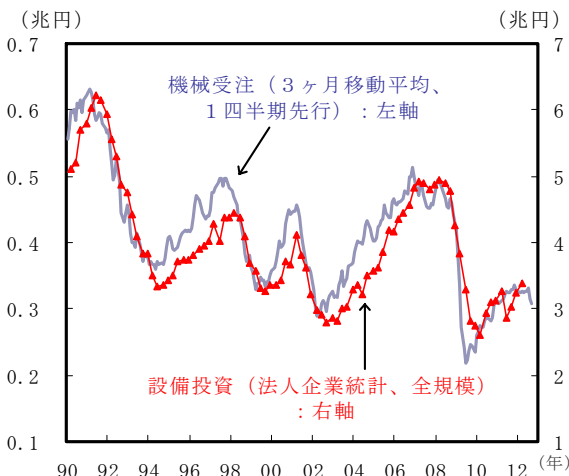


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

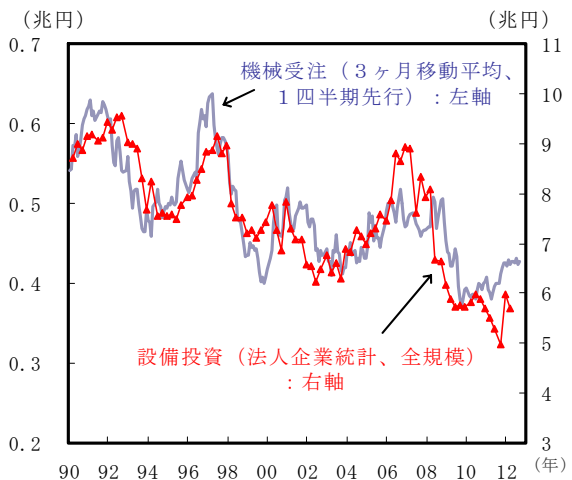


機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



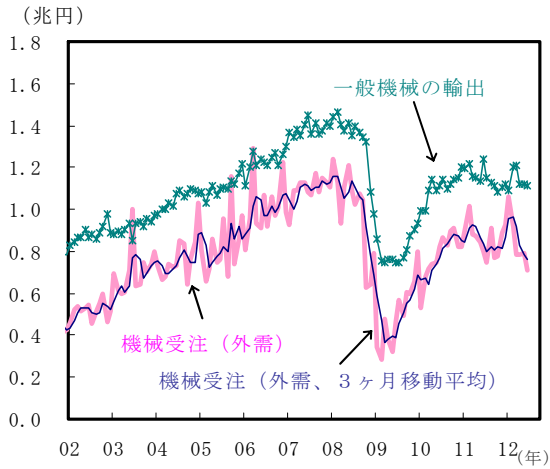
(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

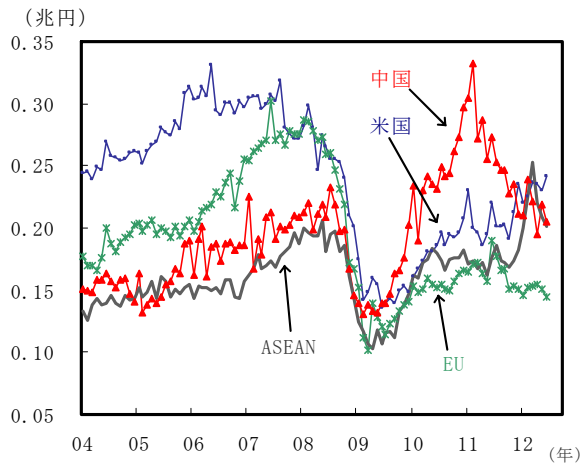


その他

一般機械の輸出と機械受注の外需（季節調整値）

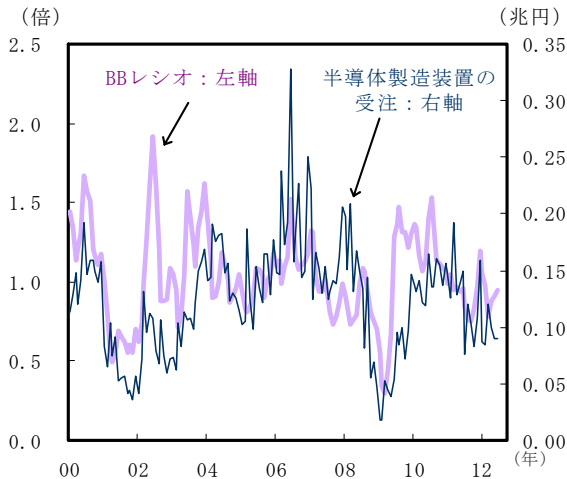


一般機械の輸出先（主要国・地域、季節調整値）



(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省、日本銀行統計より大和総研作成

半導体製造装置の受注とBBレシオ

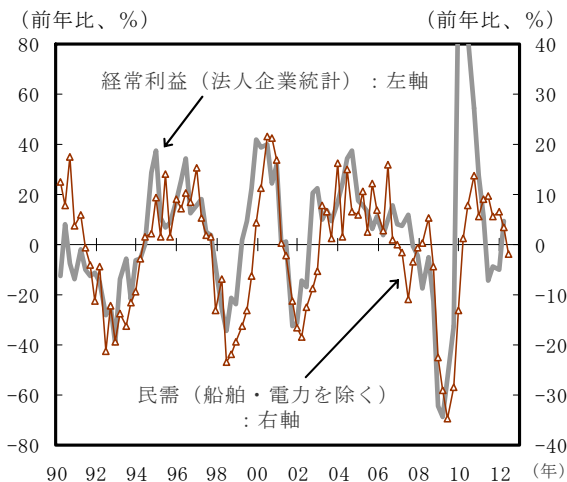


機械受注と生産（建設機械）

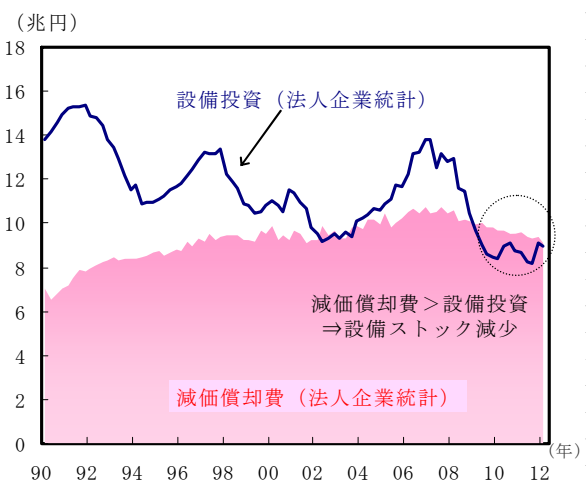


(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、日本半導体製造装置協会、経済産業省統計、日本銀行統計より大和総研作成

企業収益と機械受注（前年比）



設備投資と減価償却費（季節調整値）



(注) 法人企業統計は、全規模・全産業（金融・保険業を除く）ベース。減価償却費の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成